佐藤 雄太（2023）『言語記述論集』15：85-98

ハルビ語の民話「王と王妃」

佐藤雄太
東京外国語大学
キーワード : ハルビ語、インド・アーリヤ諸語、オリア語、
マラーティー語、東部ヒンディー語、少数民族

1　ハルビ語の概要

ハルビ語[1]（英：Halbi language）は、インドのチャッティースガル州南部のバスタル県（英：Bastar）を中心とする地域で話されている。2011 年のインド国勢調査によると、話者人口は 593,443 人である。

ハルビ語は、インド・ヨーロッパ語族インド語派に属する。グリアスンの『インド言語調査』（*Linguistic survey of India*）は、ハルビ語を「オリア語、チャッティースガリー語、マラーティー語の興味深い混合物」としているが［Grierson (comp. & ed.) 1967, 330］、その記述はオリア語の巻でもチャッティースガリー語の巻でもなく、マラーティー語の巻（Indo-Aryan family のうち southern group の諸言語を扱った巻）に収められている［ibid., 330–409］。そうなった経緯について、グリアスンは別の巻で次のように書いている。「私が東部ヒンディー語に従事していたとき、ステーン・コノーヴ博士（今では教授だが）が並行してマラーティー語に従事していた。それぞれが独立して調査していたのだが、われわれはついに、ハルビ語という興味深い・混ぜこぜの方言が話されている合流点で落ち合った。東部ヒンディー語の観点から、私はこの言語をマラーティー語の一形態だと見做した。だが他方でコノーヴ博士は、マラーティー語の眼鏡を通して見て、これは東部ヒンディー語の一形態だと主張した。先程の私の言葉通り、この方言は『調査』のマラーティー語の巻に載ることとなった。しかし、これがもし東部ヒンディー語の巻に収められていたとしても、その按排が間違っていたとは言えなかったであろう。」［Grierson (comp. & ed.) 1927, 31］

[1] ハルビ語の言語名は、デーヴァナーガリー文字の ALA-LC 翻字では halbī または halabī と表記される。ハルビ語には母音の長短の弁別がないため、本稿ではこれを/həlbi/と音素表記し、「ハルビー語」ではなく「ハルビ語」とカタカナ表記する。オリア文字では halabi と綴られ、オリア語では/hɔləbi/と発音される。

本稿の民話テクストの分析からも明らかなように、ハルビ語には、オリア語、チャッティースガリー語（東部ヒンディー語の一）、マラーティー語の要素が多く見出される。

2　ハルビ語の音韻

ハルビ語の音素目録を以下に示す［Schuyler & Woods 1967］［Mitra ; Nigam ; Singh 1977］。

母音 /ə, a, i, u, e, o/

鼻母音 /ə̃, ã, ĩ, ũ, ẽ, õ/

子音 /k, kʰ, g, gʰ, t͡ʃ, t͡ʃʰ, d͡ʒ, d͡ʒʰ, ʈ, ɖ, ʈʰ, ɖʰ, t, tʰ, d, dʰ, n, p, pʰ, b, bʰ, m, r, ɽ, l, j, w, s, h/[2]

3　民話テクスト「王と王妃」

以下に、［Telaṅga 1966, 453-454］所収の民話テクスト“rājā-rānī”（「王と王妃」）の本文にグロス、日本語訳、補足的分析を添えて示す。

テクストの原文はデーヴァナーガリー文字で表記されているが、本稿では ALA-LC 翻字方式に合わせたラテン文字表記を用いる。ALA-LC 翻字との整合を図るため、音素 /t͡ʃ, t͡ʃʰ, d͡ʒ, d͡ʒʰ, ʈ, ɖ, ʈʰ, ɖʰ, ɽ, w/ と /n/ の異音 [ŋ ~ ɳ] とは、それぞれ c, ch, j, jh, ṭ, ṭh, ḍ, ḍh, ṛ, v, ṅ, ṇ と表記する[3]。発音上脱落する潜在母音/ə/は全て表記しないが、脱落するか否かが判然としないときは、半角丸括弧を用いて(ə)のように示した箇所もある。ハルビ語以外の言語も原則として ALA-LC 翻字に統一するが、上記のように脱落する潜在母音は表記しない。また、オリア語、ベンガル語、ネパール語の母音は便宜的に ɔ, a, i, u, e, o で示す。

グロス中の略号は、原則として Leipzig Glossing Rules に準ずるが、リストにあるものもないものも併せて、テクストの後の凡例に纏めている。

テクストを分析し、日本語訳を作るにあたっては、テクストに付されたヒンディー語訳を適宜参照している。日本語訳の全角丸括弧（　）は直前の言葉の言い換え、全角角括弧［　］は著者による補足を示す。［Turner 1966］の見出し番号は、T.のあとに数字を続けて「T.1234」のように示す。

(1) goṭok gaõ rəh -e məne, utha ḍokri ḍokra -mən rəh -ət.
one village be -PST.3SG ITJ there old.woman old.man -PL live -HAB
1 つの村があった。そこにおばあさんとおじいさんとが住んでいた。
goṭok：オリア語 goṭie「1 つの」を参照。

[2] /n/は、破裂音の直前でその破裂音と同調音点の条件異音 [ŋ ~ ɲ ~ ɳ] を持つ。

[3] 異音[ɲ]はテクストに登場しない。

rəh-e məne：rəh-「ある、留まる、住む」の PST.3SG として、規則的な過去形 rə-l-o（< rəh-l-o）の他に、この形がある。məne は、動詞に後置され、語調を整える ITJ と考えられる。［Telaṅga 1966, 459］等も参照。

ḍokri, ḍokra：T.5567（< *ḍokka-, *ḍhokka-）。ヒンディー語 ḍokrā、マラーティー語 ḍokrā「年老いた」を参照。ヒンディー語では、「老いぼれの」のような否定的なニュアンスを伴うことがある。

-mən：チャッティースガリー語 -mən（PL）に相当する。オリア語 -mane を参照。［Chatterji 1960, 126］は、サンスクリット語 mānava- に由来するとし、［Telaṅga 1966, 412］もそれに同意している。

rəh-ət：-ət は、ヒンディー語の -tā（PRS.PTCP）+ COP のように習慣を表すさいに用いられるが、rəh-ət 単独で be-PST のように用いられる例もある。ここでは HAB（habitual）として分析する。

(2) temən -co sat -jhən leki -mən rəh -ət.
they -GEN seven -CLF girl -PL be -HAB
彼らには 7 人の娘達がいた。

temən：te-「彼、彼女」+ -mən（PL）と分析できる。

co：GEN を表すこの後置詞がマラーティー語の後置詞 cā に似ていることが、ハルビ語とマラーティー語との近縁性の根拠に挙げられることがある［坂田 1992, 335］。ただし、マラーティー語 cā は [t͡ʃaː] ではなく [t͡saː] である。

-jhən：人数を表す CLF。［Telaṅga 1966, 412］は、サンスクリット語 jana- に由来するとする。

(3) temən khube gərib rəh-ət, bəni bhuti kər -un kha-te rəh -ət.
they very poor be -HAB business labour do -CNV eat -PRS.PTCP be -HAB
彼らはとても貧しかった。商売や賃労働をして食べていた。

kər-un：-un「（動詞）してから」は、マラーティー語 -ūn（CNV）に相当する。

kha-te rəh-ət：PRS.PTCP + be-HAB で、過去の習慣を表している。

(4) goṭok din-e ḍokra kəhã -le to khiṇḍik uṛid əru cãur an -l -o.
one day-LOC old.man where -ABL TOP a.little black.gram and rice bring -PST-3SG
或日、おじいさんは、どこかから少しのケツルアズキ（豆の一。学名 Vigna mungo）と米とを持って来た。

din-e：ハルビ語には、他に LOC を表す生産的な後置詞として -ne があるが、-e も用いられる。例えば、ghər「家」→ ghər-e「家で」［Telaṅga 1966, 407-408］。

cãur：T.4749（< *cāmala-）。ヒンディー語 cāval「米」等に対して、ロータシズムにより l > r となっている。これは、ボージプリー語（東部ヒンディー語の一）cāur、オリア語 caurɔ「米」等にも見られる。

an-l-o：T.1174（< ánayati）。an-「持って来る」は、オリア語 aṇ-、ベンガル語 an-「持って来る」等を参照。また、PST で -l- が現れることは、東部ヒンディー語の諸方言、オリア語、ベンガル語、マラーティー語等に広く共通している。

(5) te -ke roṭi kha-to -kaje ḍokri sum(ə)ta kər-l -a.
that -ACC roti eat-INF-PURP old.woman advice do -PST-3PL
それをロティ（無発酵パンの一、または食事一般）［にして］食べるために、おばあさん［とおじいさんと］は相談した。

kha-to-kaje：動詞語幹 kha-「食べる」に、INF の接辞 -to(r) が付き、更に DAT または PURP の後置詞 -kaje「（～の）ために」が付いている。この -kaje は kaj「仕事」+ -e（LOC）と分析できる。この kaj は、T.3078（< kārya-）にある通り、東部ヒンディー語の諸方言、オリア語、ベンガル語等に広く共通している。

sum(ə)ta：サンスクリット語 su-mati「よき考え、善意」からであろう。

(6) te goṭ -ke bəṛe leki sun -te rəh-e.
that conversation-ACC big girl listen-PRS.PTCP be -PST.3SG
その話を、上の娘が聞いていた。

goṭ：サンスクリット語 goṣṭhī-「集会、会話」（< goṣṭha-「牛舎」）からであろう。

sun-te rəh-e：PRS.PTCP + be-PST で、過去進行形を表している。

(7) hun ja -un səpay bəhin-ke sãg-un di -l -i.
she go -CNV all sister-ACC say-CNV give-PST-3SG.F
彼女は［そこから］立ち去って、姉妹の皆に言った。

səpay：T.13276（< sarva-）。ベンガル語 ʃɔbai「皆」を参照。

sãg：T.12842（< sáṃkyāti）。オリア語 saṅg-、マラーティー語 sẽng-「言う」を参照。

(8) no.hay.re aj aya -buba -mən roṭi rãdh -un kha-de.
ITJ today mother-father-PL roti cook -CNV eat-FUT.3PL
「ああなんと、今日、お母さんとお父さんとが、ロティを料理して食べてしまうでしょう。」

rãdh-：T.10615（< randhana-「破壊、料理」 ← √radh「従属する」）。ベンガル語 ranna を参照。(10)、(14)、(16)には鼻母音のない radh-という形で出てくる。

(9) hã kəsən kər-tor ho -ede re.
ITJ how do -INF COP-FUT.3SG ITJ
「ああ、どのようにすべきでしょう。」
kər-tor ho-ede：INF + COP で義務・予定を表している。この形式は、インド・アーリヤ諸語に広く共通している。

(10) nani leki bəl -l -i no.hay.re jitro səman radh -tor pis -tor as-e
little girl say -PST-3SG.F ITJ as.many.REL utensil cook-INF grind-INF be-PRS.3SG
hun -ke dhər-un so -ũde.
that.CREL-ACC hold-CNV sleep-FUT.1PL
下の娘は言った。「ああなんと、料理したり粉を挽いたりするために在る限りの道具を、私達は抱えて寝ましょう。」
jitro：量を表す REL。この REL を含む名詞句 jitro səman に対応する CREL が、hun である。

(11) tebe səpay leki-mən ələg.ələg musər, bəhana, kəṛhəi, tel,
then all girl-PL respectively pestle winnowing.basket wok oil
culha, sil -ke dhər-un -bhati so -ũ di -l -a.
stove millstone-ACC hold-CNV-after sleep-CNV give-PST-3PL
そこで、娘達は皆、それぞれ杵、箕、鉄鍋、油、焜炉、石臼を抱えてから寝た。

(12) jebe adha rati ho -l -i tebe ḍokra, ḍokri -ke
when.REL half night become-PST-3SG.F then.CREL old.man old.woman -ACC
jəga -l -o əru bəla -l -o səpay səman -ke an -∅.
awaken-PST-3SG.M and say -PST -3SG.M all utensil-ACC bring-IMP.2SG
夜更けになったとき、おじいさんはおばあさんを起こして、声を掛けた。「道具を全て持って来い。」
jebe、tebe：時間を表す REL、CREL。(26)には jeb、teb という形で出てくる。

(13) sab leki-mən so bəlas-ət.
all girl -PL sleep (?) -PST
「娘達は皆寝てしまっている。」
bəlas-ət：bəlas-は不詳。文脈とテクストのヒンディー語訳とから、この-ət は HAB ではなく PST であると考えられる。

(14) radh-un kha-ũde.
cook-CNV eat -FUT.1PL

「［私達は］料理をして食べよう。」

(15) mantər səb leki-mən dhər-un dhər-un so -u rəh-ət
but all girl-PL hold-CNV hold-CNV sleep-CNV be -PST
temən bəle uṭh -la.
they also wake -PST.3PL
しかし、娘達は皆、［料理道具を］抱えて寝ており、彼女達も目を覚ました。
so-u：CNV の -un は、-ũ ~ -u の異形を持つと考えられる。

(16) pache səpay mir -un radh-un khad-l -a.
later all meet-CNV cook-CNV eat -PST-3PL
そのあとで、皆一緒になって料理して食べた。
pache：T.7990（< *paśca-）。オリア語 pɔchɔ-re、ヒンディー語 pīche「後ろに」等を参照。(50)では pace となっているが、インド・アーリヤ諸語のうち無気音／有気音の対立のある言語の多くで、有気音-ch-が現れている。
mir-：T.10133（< milati ← √mil「合う、会う、手に入る」）。オリア語 miḷ-、ヒンディー語 mil-、マラーティー語 miḷ-「合う、会う、手に入る」等を参照。ロータシズムにより l > r。

(17) goṭok din-e ḍokra car khəva-tor -kaje
one day-LOC old.man chironji let.eat-INF-PURP
səpay leki-mən-ke ran -baṭe ni -l -o.
all girl-PL -ACC woods -ALL take-PST-3SG.M
或日、おじいさんはインドウミソヤ（ウルシ科の植物の一。学名 Buchanania latifolia）を食べさせるために、娘達を森の方へ連れて行った。

(18) utha -to car ruk-mən -ke kaṭ-un di -l -o əru
there-TOP chironji tree-PL -ACC cut-CNV give-PST -3SG.M and
əpən leki -mən -ke chaṛ -un pəra -l -o.
of.oneself girl -PL -ACC leave -CNV run.away-PST -3SG.M
そこでインドウミソヤの木を切った。そうして自分の娘達を放って、逃げ去った。
ruk：T.10757（< *rukṣa- ~ vṛkṣa-「木」）。パンジャービー語 rukkh「木」等を参照。
pəra-：T.7955（< pálāyatē ← palā- + √i「逃げる」）。オリア語 pɔḷa-、ベンガル語 pala-、ヒンディー語 palā-「逃げる」等を参照。ロータシズムにより l > r となるこの形は、ヒンディー語 palā- の異形 parā-、オリア語 pɔḷa- の異形 pɔra- 等にも見られる。

(19) leki-mən khube car khad-l -a.
girl-PL very chironji eat -PST-3PL
娘達は大いにインドウミソヤを食べた。

(20) kha-to -ke khube pyas lag -l -i.
eat -INF-ACC very thirst feel-PST-3SG.F
食べることで、とても渇きを感じた。

(21) ḍoṅgari -ne pani -kaje ge -l -a mantər
mountain-LOC water-PURP go-PST-3PL but
kəhã -co pani mir -t -i.
where -GEN water be.available -PRS.PTCP -3SG.F
［彼女達は］山に水のために行った。しかし、どこの水が得られよう（どこにも水は得られない）。

ḍoṅgari：マラーティー語 ḍoṅgar「山」を参照。

pani：動詞 mir-t-i（be.available-PRS.PTCP-3SG.F）から、pani「水」が F 扱いになっていることがわかる。これは、ヒンディー語 pānī「水」（M）とは異なる。

(22) pyas -co mare pãc -jhən leki -mən mər-l -a.
thirst-GEN reason five-CLF girl -PL die -PST-3PL
渇きのせいで、5 人の娘達が死んだ。

(23) nani leki əru bəṛe leki bac -l -o.
little girl and big girl survive-PST-3PL(?)
下の娘と上の娘が助かった。

bac-l-o：bac-l-o は survive-PST-3SG.M であるため、文脈上考えにくい。*bac-l-a（survive-PST-3PL）の誤植か。

(24) temən ḍoṅgari nahk -un goṭok catər beṛa -ne i -l -a.
they mountain cross(?)-CNV one open.space field-LOC come -PST-3PL
彼女達は山を越えて、ひらけた畑にやって来た。

nahk-un：動詞 nahk- は不詳。文脈とテクストのヒンディー語訳とから、「越える、渡る」と考えられる。

(25) duriha -le goṭok təriya dəkha.di-l -i.
distance-ABL one pond be.seen -PST-3SG.F
遠くから、1 つの池が見えた。

dəkha.di-l-i：動詞 dəkha.di-l-i（be.seen-PST-3SG.F）から、təriya「池」が F 扱いになっていることがわかる。これは、(26)と整合するが、(28)と整合しない。

(26) mantər jeb bəṛe leki pani pi -tor -kaje utha ge-l -i
but when.REL big girl water drink-INF-PURP there go-PST-3SG.F
teb təriya sukh -l -i ho.
then.CREL pond dry.up-PST-3SG.F MOD
しかし、上の娘が水を飲むためにそこに行ったとき、池は干上がってしまっていたようだった。

jeb、teb：時間を表す REL、CREL。(12)には jebe、tebe という形で出てくる。

sukh-l-i：動詞 sukh-l-i（dry.up-PST-3SG.F）から、təriya「池」が F 扱いになっていることがわかる。これは、(25)と整合するが、(28)と整合しない。

ho：推量を表す MOD。

(27) nani leki-ke khiṇḍik bud i -l -i hun bəl -ese ja-∅
little girl-ACC a.little idea come -PST -3SG.F she say-PRS.3SG go-IMP.2SG
didi əi mũdi-ke təriya tən -e phek -un de -s.
sister this ring -ACC pond inside(?)-LOC throw-CNV give -IMP.2SG
下の娘に、少し知恵がやって来た（閃いた）。彼女は言う。「お行きなさい、お姉さん、この指環を池の中に投げ入れなさい。」

bud：サンスクリット語 buddhi-「知恵」（F）（< √budh「目覚める、知る」）からであろう。

(28) bəṛe leki mũdi -ke dhər -un təriya bhit(ə)re phek -un di -l -i
big girl ring -ACC hold-CNV pond inside throw-CNV give -PST -3SG.F
pani -ne təriya bhər -l -o.
water-LOC pond fill -PST -3SG.M
上の娘は指環を摑んで、池の中に投げ入れた。水で池が満ちた。

bhər-l-o：動詞 bhər-l-o（fill-PST-3SG.M）から、təriya「池」が M 扱いになっていることがわかる。これは、(25)、(26)と整合しない。

(29) əru temən khube pani khad-l -a.
and they much water eat -PST-3PL
そうして彼女達は大いに水を飲んだ。

khad-：「（水を）飲む」を表す動詞として既に pi-が出てきたが、kha- / khad-「食べる」も用いられる。ベンガル語 kha-等を参照。

(30) pyas sər -l -i, nani leki mũdi -kaje gag-l -i ho.
thirst end-PST-3SG.F little girl ring -PURP cry -PST-3SG.F MOD
渇きがなくなった。下の娘は［失った］指環のために泣いたようだった。

(31) bəṛe leki təriya -ne buḍ-un mũdi -ke bahir phek -un di -l -i.
big girl pond -LOC sink-CNV ring -ACC outside throw-CNV give -PST-3SG.F
上の娘は池の中に潜って、指環を［池の］外に投げ出した。
buḍ- : T.5561（<* ḍubb-）。ヒンディー語 ḍūb-「沈む」等に対して、音位転換が生じている。オリア語 buṛ-、スィンディー語 bụḍ-「沈む」を参照。

(32) mũdi-ke dəkh-un nani leki khus ho -l -i.
ring -ACC see -CNV little girl happy become -PST -3SG.F
指環を見て、下の娘は喜んだ。

(33) mantər te -ke əi dukh ho -l -i ki te -co bəṛe bəhin
but she -ACC this sadness happen -PST -3SG.F PTCL she -GEN big sister
pani bhit[ə]re buḍ -un ge -l -i.
water inside sink -CNV go -PST -3SG.F
しかし、彼女にはこの［次のような］悲しみが生じた。彼女の上の姉妹（姉）が、水の中に沈んでしまった［という悲しみが］。
buḍ-un：原文は *buṛan だが、明らかな誤植のため buḍ-un とする。
dukh：動詞 ho-l-i（happen-PST-3SG.F）から、dukh「悲しみ」が F 扱いになっていることがわかる。これは、ヒンディー語 dukh「悲しみ」（M）とは異なる。

(34) kay kər-t -i.
what do -PRS.PTCP -3SG.F
どうしたものだろうか。

(35) goṭok ruk -ne cəṛh -un rəh-e hun -i təriya -ne goṭok raja
one tree -LOC climb -CNV be -PST that-INT pond -LOC one king
sikar -le phir-un -bhati i -l -o əru ḍera kər-l -o.
hunting -ABL turn-CNV -after come -PST -3SG.M and camp do -PST-3SG.M
［彼女は］1 本の木に登っていたのだが、まさにその池に、1 人の王様が狩りから戻ったあとにやって来て、そうして野営をした。

(36) leki əccha sundər rəh -e ho.
girl very beautiful be -PST MOD

娘はとても美しかったのであろう。

(37) te -ke dhər -un hun raja əpno ghər -e ni -l -o.
she -ACC catch-CNV that king of.oneself home -LOC take -PST -3SG.M
彼女を捕えて、その王様は自分の家に連れて行った。

(38) əru rani bəna -l -o.
and queen make -PST -3SG.M
そうして［彼女を］王妃にした。
rani：原文は *nani だが、明らかな誤植のため rani とする。

(39) te raja -co chəy rani bəs -e rəh -ət.
that king -GEN six queen live -PST.PTCP be -HAB
その王には、6 人の王妃がいた。
bəs-e rəh-ət：PST.PTCP + be-HAB で、「過去の或時点で既にそのような状態になっていた」という過去完了的な意味を表していると考えられる。

(40) te nani -ke khube ris ho -te rəh -ət.
that little-ACC very angry be -PRS.PTCP be -HAB
その娘に対して、［王妃達は］とても怒っていた。
ris：T.10746、T.10749（< ríṣ ← √riṣ「傷つく」）。ヒンディー語 ris「怒り」（F）を参照。

(41) temən -co goṭok bəle bal.bəcca ni- rəh -e.
they -GEN one even children NEG-be -PST
彼女達には、1 人も子供がいなかった。

(42) rə -te rə-te khube din -e ho -l -i.
be-PRS.PTCP be-PRS.PTCP many day -INT(?) pass -PST -3SG.F(?)
そうこうするうちに、多くの日が過ぎて行った。
din-e：-e は（特に din に付くさいは）LOC を表すことが多いが、ここでは INT か。また、動詞 ho-l-i（pass-PST-3SG.F）から、din が F 扱いになっていることがわかる。これは、ヒンディー語 din「日」（M）とは異なる。

(43) nani rani -co goṭok leki əru leka ho -l -a, mantər hun-i din-e
little queen -GEN one girl and boy be.born-PST-3PL but that-INT day-LOC

pəida ho-to bera te -co ãkhi badh -un rəh-ət.
born be-INF time she-GEN eye cover-CNV be -PST
娘王妃に 1 人の女の子と男の子とが生れた。しかし、まさにその日、［子供達が］生れたときに、彼女の目は覆われてしまった。
ho-to bera：動詞（INF）＋bera「時間」で「（動詞）するとき、したとき」を表す。

(44) leka leki -ke təriya -ne phek -un -bhati biləi pila -mən-ke
boy girl -ACC pond -LOC throw-CNV-after cat child-PL -ACC
rakh-un di -l -a.
put -CNV give -PST-3PL
男の子と女の子とを池の中に投げ込んだあと、［人間の子供達の代わりに］ねこの子供達を［王妃達は］置いてやった。

(45) raja əi hal -ke dəkh-un nani rani -ke kə̃vahãkni bəna -l -o.
king this condition -ACC see -CNV little queen -ACC scare.crow make-PST -3SG.M
王様はこの状況を見て、娘王妃を鴉追い女（畑の害鳥を追い払う役目の女、身分の低い女）にした。

(46) dhire.dhire khube din kəṭ -l -i.
gradually many day pass -PST -3SG.F
だんだんと多くの日が過ぎた。
kəṭ-l-i：(42)と同様に、動詞 kəṭ-l-i（pass-PST-3SG.F）から、khube din「多くの日」が SG.F 扱いになっていることがわかる。

(47) hun -i təriya -ne duy-ṭhən kəməl-co phul phuṭ -l -a.
that -INT pond -LOC two-CLF lotus -GEN flower bloom -PST -3PL
まさにあの池の中に、2 つの蓮の花が咲いた。

(48) rani -mən te phul -ke dəkh-un jan -l -a ki
queen -PL that flower -ACC see -CNV realise-PST-3PL PTCL
əi hun -i leka leki -co phul ãy.
this that -INT boy girl -GEN flower be.PRS.3PL
王妃達はその花を見て悟った、これはまさにあの男の子と女の子との花であるのだと。
ãy：［Telaṅga 1966, 459］に挙げられている CPL の PRS.3PL は at、asət の 2 つだが、ãy はその異形と考えられる。ヒンディー語の CPL の hai / haĩのように、非鼻母音の ay（CPL.PRS.3SG）に対して、鼻母音が PL 標識となっているのであろう。

(49) te phul -ke an -to -kaje khube nəukar pəṭha -l -a
that flower -ACC bring -INF-PURP many servant send -PST-3PL
mantər koni bəle an -uk ni- sək -l -o.
but anyone even bring -CNV NEG-be.able -PST -3SG.M
その花を持って来るために、［王妃達は］多くの召使を送った。しかし、誰も［その花を］持って来ることが出来なかった。
pəṭha- : T.8607（< prátiṣṭhati ← pra + √sthā「立ち上がる、送り出す」）。ベンガル語 paṭha-、ネパール語 pəṭha-「送る」等を参照。

(50) pace raja hun kə̃vahãkni -ke pəṭha -l -o.
later king that scare.crow-ACC send -PST-3SG.M
そのあと、王様がかの鴉追い女を送った。
pace : (16)では pache となっている。

(51) mantər utha hun ge-l -i əru phul -ke ṭuṭa -te rəh -e
but there she go-PST-3SG.F and flower -ACC let.break -PRS.PTCP be -PST.3SG
ki duy-ṭhən leka əru leki utha -le nikər -l -a.
PTCL two-CLF boy and girl there-ABL come.out -PST -3PL
しかし、そこに彼女が行って、そうして花を摘みつつあるとき、2 人の男の子と女の子とがそこから出てきた。
nikar- : T.7478（< *niṣkalati）。ヒンディー語 nikal-を参照。ロータシズムにより l > r。

(52) kə̃vahãkni bən -un rəh -e hun-i pher raja -ke səb bat -ke sãg -l -i.
scare.crow become -CNV be -PST she-INT again king-ACC all thing-ACC say-PST-3SG.F
［彼女は］鴉追い女になっていたのだったが、まさにその彼女が、改めて王様に全ての話を語った。

(53) raja hun chəy rani -ke phãsi di -l -e.
king that six queen-ACC hanging give -PST-3SG.M(?)
王様は、かの王妃達を絞首刑に処した。
di-l-e : di-l-e は give-PST-1SG であるため、文脈上考えにくい。*dil-l-o（give-PST-3SG.M）の誤植か。

(54) əru nani rani səṅge raj kər -un khad -l -a.
and little queen with reign do -CNV prosper(?) -PST-3PL
そうして、娘王妃と共に［国を］統治して栄えた。
səṅge : səṅg の LOC と分析できる。ベンガル語 ʃəṅg-e「（GEN と）共に」を参照。

(55) jebe hun lekra, lekri-mən bəṛe ho -l -a əru
when.REL that boy girl -PL big become-PST-3PL and
rajpaṭh-ke cəla -l -a.
reign -ACC conduct-PST-3PL
その男の子と女の子とが大きくなると、［跡を継いで］統治を行なった。

(56) goṭok gərib leki-co təkdir jag -l -i ki.
one poor girl-GEN destiny wake-PST-3SG.F PTCL
hun rani bən -un raj kər-l -i
she queen become-CNV reign do -PST -3SG.F
1 人の貧しい娘の運命が目覚めたことで、彼女は王妃となって国を治めた。

(57) əkəl əru təkdir ho-lek bəṛe bəṛe kara ho -un ja-ese.
wisdom and destiny be-CNV big big work(?) be.done-CNV go-PRS.3SG
知恵と運命とがあれば、大きな大きな仕事が成し遂げられるだろう。

(58) kəhani sər-l -i.
story end-PST-3SG.F
お話おしまい。

凡例

1, 2, 3 一、二、三人称
ABL 奪格
ACC 対格
ALL 方向格
CLF 類別詞
CNV 副動詞
CREL 相関関係詞
DAT 与格
F 女性
FUT 未来
GEN 属格
HAB 習慣
IMP 命令
INF 不定動詞
INT 強調
ITJ 間投詞
LOC 処格
M 男性
NEG 否定
PL 複数
PRS 現在
PST 過去
PTCL 不変化辞
PTCP 分詞
PURP 動作目的
REL 関係詞
SG 単数
TOP 主題

参考文献

本稿中で引用するさいは、［責任表示 出版年, 頁数］の形で示す。

Chatterji, Suniti Kumar, 1960, *Indo-Aryan & Hindi*, Calcutta : Firma K. L. Mukhopadhyay.

Grierson, G. A. (comp. & ed.), 1927, Introductory, *Linguistic survey of India*, vol. 1, part 1, Calcutta : Govenment of India Central Publication Branch.

Grierson, G. A. (comp. & ed.), 1905, Indo-Aryan family, southern group. Specimens of the Marāṭhī language, *Linguistic survey of India*, vol. 7, Calcutta : Office of the Superintendent of Government Printing, India.

Grierson, G. A. (comp. & ed.), 1967, Indo-Aryan family, southern group. Specimens of the Marāṭhī language, *Linguistic survey of India*, vol. 7, Delhi : M. Banarsidass.

Pāṇigrāhī, Rūdra Nārāyaṇa, 2021, *Halbī vyākaraṇa*, Bhilāī : Sarasvatī Buksa.

Pāṇigrāhī, Rūdra Nārāyaṇa, 2021, *Hindī-Halbī śabdakośa*, Bhilāī : Sarasvatī Buksa.

坂田貞二、1992、「ハルビー語」、『言語学大辞典』第 3 巻 335-336 頁、三省堂。

Schuyler, Betsy & Woods, Fran, 1967, “Segmental phoneme analysis of the Halbi dialect”.

Shukla, H. L., 1987, *Dictionary of tribal languages : historico-comparative : Hindi-Hindi-English*, Delhi : B.R. Pub. Corp.

Siṃha, Pūrana, 1937, *Halbī-bhāshā-bodha*, Jagadalapura : [s. n.].

Telaṅga, Bhālacandra Rāva, 1966, *Chattīsagaṛhī, Halabī, Bhatarī boliyoṃ kā bhāshāvaijñānika adhyayana*, Bambaī : Hindī-Grantha-Ratnākara.

Tivārī, Bholānātha, 1964, *Bhāshā vijñāna kośa : pariśishṭa rūpameṃ bhāshā vijñānakī Aṅgrejī Hindī pāribhashika śabdāvalīke sātha*, Vārāṇasī : Jñānamaṇḍala.

Turner, R. L., 1966, *A comparative dictionary of the Indo-Aryan languages*, London : Oxford University Press.

Masica, Colin P., 1993, *The Indo-Aryan languages*, Cambridge : Cambridge University Press.

Mitra, A. (foreword) ; Nigam, R.C. (general supervision and guidance) ; Singh, R.A. (investigation and report), 1977, *Survey of Halabi in Madhya Pradesh*, [New Delhi] : Language Division, Office of the Registrar General, India & Delhi : Manager of Publications.

Woods, Fran, 1973, “Sentence patterns in Halbi” in Trail. Ronald L.(ed.), *Patterns in clause, sentence, and discourse in selected languages of India and Nepal*, Part I, pp. 35-123, Norman : Summer Institute of Linguistics of the University of Oklahoma.

受理日　2023 年 4 月 11 日